



OTC薬を上手に使う…上手のヒント⑬ 不適切な選択をしない(7) 皮膚用薬

夏本番ともなると、虫さされやあせもなど、さまざまな皮膚のトラブルが発生します。これらの皮膚トラブルでは、よほどひどくない限りまず自分で手当てすることが多いので、OTC薬を用いたセルフメディケーションが最も大事な分野でしょう。

M-No.4-8では、皮膚トラブルのうち「水虫」について、間違った手当てをしないための注意点について書きました。ここでは、「薬が合うか、合わないか」の視点から書いてみます。まず、薬が症状に合っているかどうかを見ていきます。

市販されている皮膚外用薬(飲み薬ではないもの)には、大きく分けて3種類の薬剤が使われています。

- ①皮膚に起きている炎症を抑える薬剤…虫さされ、かぶれ、やけど、湿疹などに用いる
- ②カビやウイルスの増殖を抑える薬剤…水虫、タムシなど、あるいはヘルペスに用いる
- ③化膿を抑える薬剤…①や②に化膿が加わったとき、あるいは予防のために用いる

以上のことから、薬が症状に合うかどうかは、起きているトラブルの原因が何かによって決まることが分かります。とは言ってもこれは素人には難しいことが多いのです。

虫に刺された、何かに触った、やけどをしたなど、原因がはっきりしている場合は適切な薬を選べますが、見た目は同じようでも原因が異なる皮膚症状はいろいろあります。

例を挙げてみていきましょう。

①の作用をもつ薬剤には、副腎皮質ホルモン薬(ステロイド薬)、抗ヒスタミン薬などがあります。ステロイド薬は炎症を抑える作用が強く良く効きますが、副作用が出やすい薬です。

★Aさんは、誤ってポットのお湯を手首の内側に垂らしてしまい、赤くひりひりしてちょっと水ぶくれができました。家に常備していた軟膏をそっと塗ってガーゼで覆っておいたところ、痛みも水ぶくれも収まり自然に治癒しました。Aさんが塗った軟膏はステロイド薬を含むものでした。熱による炎症に対してステロイド薬が効果的に効いた例です。

★Bさんは、疲れがたまっていてちょっとカゼ気味でした。気がつくと上唇の上がりひりひりして赤くなり、ブツブツと水ぶくれのようになってきたので、前に湿疹が出たときに薬剤師に勧められて買ったクリーム剤をぬっていました。翌日さらにひどくなったので薬局に行って相談しました。薬剤師は口唇ヘルペスと判断しましたが、初めての発症であることと、患部が大きくなっていたので皮膚科受診を奨めました。Bさんが塗った薬もステロイド薬でしたが、ヘルペスウイルスによる症状には使ってはいけない薬剤です。次に薬が使用する人の体質に合わない例を挙げます。

皮膚外用薬には、①、②、③の薬剤の他に、効果を高めたり、使用感をよくしたり、日持ちを良くしたりするために、さまざまな薬剤が含まれています。ときにこの中の何らかの成分に対してアレルギー反応を示す人がいます。薬剤が体質に合わないケースです。

★Cさんは、顔面に赤い発疹が出来て皮膚科を受診しました。医師の処方で、いろんな薬を試しましたが良くなりませんでした。後日、薬剤に含まれる防腐剤(殺菌剤)にアレルギー症状を示すことがわかりました。

皮膚トラブル解消の基本は「こじらせない」ことです。自己流になりがちな皮膚疾患の手当ですが、正しく使ってこそ本当のセルフメディケーションです。



